

業務委託仕様書

- 1 委託業務名 岡山県農林水産総合センター畜産研究所 家畜飼養管理・草地管理・堆肥生産管理・試験研究補助等業務
- 2 業務場所 久米郡美咲町北 2272
岡山県農林水産総合センター畜産研究所
- 3 委託期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日
- 4 業務内容 岡山県農林水産総合センター畜産研究所における家畜飼養管理・草地管理・堆肥生産管理・試験研究補助等の業務で別紙1のとおりとする。
業務目標は、1頭当たりの生産乳量等の生産性指標について、県平均値以上とする。
- 5 業務の区分 別紙1の平日業務及び閉庁日業務とする。
閉庁日とは土曜日・日曜日・祝祭日及び年末年始（12月29日から1月3日）とし、それ以外は平日として取り扱う。
- 6 業務時間 8時30分から17時15分までの間に実施し、その間は連絡体制を整える。
ただし、業務時間外においても、夜間分娩など、その必要性に応じて業務を実施する。
- 7 飼養頭数等と作業用機械等
 - (1) 飼養頭数等

和	牛	約 240 頭（うち繁殖牛約 100 頭、育成牛・子牛約 70 頭、肥育牛約 70 頭）	
乳	用	牛	約 100 頭（うち経産牛約 50 頭）
総	面	積	163.7ha（うち牧草地等 59ha）
 - (2) 主な作業用機械等 別紙2のとおり
- 8 業務計画書の提出
受託者は、毎月末日までに（4月分については契約締結後速やかに）翌月の業務計画書を農林水産総合センター畜産研究所（以下、「畜産研究所」という。）指定の様式で提出しなければならない。
受託者は、農林水産総合センター長の承認の上、飼養家畜や草地の状況又は気象状況に応じ、あらかじめ提出した業務計画書を変更することができる。
また、緊急の場合は、受託者の判断で変更できるものとするが、速やかに農林水産総合センター長に報告するものとする。
- 9 業務員の配置
受託者は、委託業務に必要な数の現場責任者及び業務員を業務場所に配置し、委託業務を履行するものとする。
受託者は、現場責任者及び業務員を配置したとき、氏名、年齢、住所、連絡先電話番号、業務に必要な資格の取得状況等を書面で報告すること。
また、これらの配置を変更したときも同様とする。
なお、受託者は、畜産研究所及び他の業務受託業者と連携し、円滑に業務を遂行すること。
- 10 受託者の要件
 - (1) 責任者を含む3名以上の業務員は、畜産業（酪農、肉用牛、草地管理等）を3年以上経

験していること。

- (2) 業務員は概ね 20 名以上が望ましく、その半数以上は、畜産業（酪農、肉用牛、草地管理等）を 1 年以上経験していること。
- (3) 業務員が搾乳ロボットの操作を経験しており、職場において、その教育ができること。
- (4) 大型特殊自動車運転免許（農耕車限定可）、けん引運転免許（農耕車限定可）、普通自動車運転免許（AT 限定を除く）、労働安全衛生法に基づくフォークリフト技能講習修了証及び車両系建設機械技能講習修了証を有する業務員がそれぞれ 3 名以上であること。

11 報告書等の提出

- (1) 受託者は、毎月の委託業務が終了したときは、それぞれの業務内容毎に畜産研究所指定の様式による報告書を作成し、指定する職員に提出しなければならない。
- (2) 受託者は、畜産研究所指定の様式による作業日誌を整備しておくこと。
- (3) 受託者は、飼養家畜又は施設・設備等の異常を発見した場合は、任意の様式による報告書を作成し、畜産研究所の指定する職員に提出しなければならない。
ただし、緊急を要する場合は、口頭による報告をもって報告書の提出に代えることができる。

12 調査等

農林水産総合センター長は、必要があると認めるときは、受託者に対し委託業務の処理状況について報告若しくは資料の提出を求め、又は必要な指示を与えることができる。

13 作業用機械等の貸与

本業務を実施するために必要な車両、設備・作業用機械等（以下、「作業用機械等」という。）は、岡山県の所有車及びリース車等を別紙 2 のとおり貸与する。

なお、受託者が所有する作業用機械等を使用する場合は、あらかじめ農林水産総合センター長の承認を得なければならない。

14 作業用機械等の始業点検及び不具合・故障時の調整・修理

本業務を実施するため貸与する作業用機械等の始業点検は、受託者の責において行うこと。
また、使用する作業用機械等に不具合・故障が発生した場合は、速やかに調整・修理を行うこと。

ただし、受託者の技能では修理復旧等が困難な場合は、ただちに畜産研究所に、不具合・故障の状況を詳しく報告するとともに、畜産研究所の手配した専門業者による修理復旧等の支援を行うこと。

15 県有自動車等の取扱い

県有自動車等の取扱いについては、岡山県庁用自動車管理規程により行うこと。

なお、受託者は、貸与を受けた別紙 2 の自動車について、委託契約締結後遅滞なく、受託者業務員及び県職員の双方が対象となる自動車損害賠償保障法（昭和 30 年法律第 97 号）に基づく自動車損害賠償責任保険を補う任意保険（自動車保険）等（保険内容：対人賠償 1,000 万円、対物賠償 200 万円、示談代行サービス付き、対物超過費用 50 万円、被害事故弁護士費用 300 万円）に加入し、その旨を農林水産総合センター長へ報告するものとする。

また、受託者は、別紙 2 の作業車両について、使用する場合は保険等に加入し、その旨を農林水産総合センター長へ報告するものとする。

16 目的外使用の禁止

本業務を実施するため貸与した作業用機械等は、他の目的に使用してはならない。

17 作業時の事故防止について

受託者は、本業務の実施に当たっては、ヘルメットを着用するなど、十分な安全確保を図らなければならない。

また、畜産研究所は発生した事故についての損害賠償は一切行わない。

18 作業資材等の費用負担区分

本業務を実施するための作業資材（おがくずなどの敷料等）や燃料（ガソリン、軽油等）は、畜産研究所が負担する。

ただし、受託者は、業務員に対して業務上必要な被服や軍手等の装備品を着用させるものとする。

19 現場事務所の貸与

本業務を実施するため、受託者が使用する大家畜ゾーン及び草地ゾーンにおける事務所の部屋を貸与することとし、事務所の適正な管理や節電・節水等に努めるものとする。

20 教育訓練等

(1) 畜産研究所は、受託者に対して、受託者の費用負担において、畜産研究所の実施する消防保安・家畜衛生等の訓練又は職員研修等に受託者の業務員を参加させるよう命じることができる。

(2) 受託者は、必要に応じて業務員に対して家畜飼養・衛生管理、労働安全衛生確保等に関する資格取得又は講習受講等の機会を提供しなければならない。

21 来場者への配慮

畜産研究所来場者が受託者の業務員に対して案内等を求めた場合は、受託者は、業務員が多忙でない限り、来場者に対する案内等を実施させるものとする。

また、受託者は、業務員の接遇技術を向上させるよう努めなければならない。

22 試験研究等への協力

受託者は、畜産研究所が試験研究機関であることや畜産情報発信機関であるとともに、農業後継者を育成する必要性を十分理解し、試験研究時における家畜飼養管理等の試験研究の取り決めの遵守や所内まきばの館などにおける畜産情報の発信に係る業務の推進、研修生の受け入れに協力すること。

また、農業大学校旭分校（和牛コース）に係る家畜管理（哺育・育成・繁殖・放牧・肥育・環境等）の学生実習に協力すること。

23 家畜伝染病予防及び対策の協力

受託者は、本業務を実施するに当たり、家畜伝染病予防法に基づき定めた立入制限区域内で作業する際の車両及び靴の消毒の実施等を定めた飼養衛生管理基準を遵守すること。

また、家畜伝染病対策の作業にも協力すること。

24 衛生管理・火気取扱い

受託者は、衛生管理・火気取扱いについては、細心の注意を払うこと。

25 緊急事態への対応

受託者は、畜産研究所で火災、土砂災害、水枯渇等の災害又は家畜伝染病の発生を疑う事例、飼養家畜の脱柵等の緊急事態が発生した場合は、畜産研究所職員と共同して緊急事態に対応すること。

26 その他

契約書、仕様書で定めのない事項については、双方協議の上決定する。

(別紙1)

家畜飼養管理

業務名	区分	業務の詳細	備考	
和牛肥育業務	試験研究補助業務	試験飼料の給与 試験用飼料の製造及び計算 採食量調査(残飼料の測定、採食量のデータ入力) 試験牛の観察(健康状態及び繁殖状況調査) ふんの採取及び下痢状況調査 各種台帳の整理	平日業務	閉庁日業務
	飼養管理業務	飼料給与 飼槽の掃除 ロールベール、乾草などの飼料及び敷料の運搬 除ふん 牛体洗浄及びブラッシングによる手入れ 尿溝の掃除 牛舎の清掃(消毒) 各施設・機械の点検整備・修繕 燃料管理 ふん尿運搬及びダンプ洗車		
和牛繁殖業務	試験研究補助業務	試験飼料の給与 試験用飼料の製造及び計算 試験用飼料・資材の収集 採食量調査(残飼料の測定、採食量のデータ入力) 試験牛の観察(健康状態及び繁殖状況調査) ふんの採取及び下痢状況調査 各種台帳の整理	平日業務	閉庁日業務
	飼養管理業務	飼料給与 飼槽の掃除 ロールベール、乾草などの飼料及び敷料の運搬 除ふん 牛体洗浄及びブラッシングによる手入れ 尿溝の掃除 牛舎の清掃(消毒) 分娩補助(夜間を含む) 人工哺乳 各施設・機械の点検整備・修繕 ふん尿運搬及びダンプ洗車 調教及びブラッシング 薬品・除草剤の管理 燃料管理 放牧場の管理 放牧・下牧時の牛の運搬		
酪農業務	試験研究補助業務	試験飼料の給与 試験用飼料の製造及び計算 採食量調査(残飼料の測定、採食量のデータ入力) 試験牛の観察(健康状態及び繁殖状況調査) ふんの採取及び下痢状況調査 各種台帳の整理 搾乳ロボットの各種設定 乳量調査及び乳成分測定用採材 牛群検定の実施	平日業務	閉庁日業務
	飼養管理業務	飼料給与 搾乳 飼槽の掃除 ロールベール、乾草などの飼料及び敷料の運搬 除ふん 牛体洗浄及びブラッシングによる手入れ 尿溝の掃除 牛舎の清掃(消毒) ふん尿運搬及びダンプ洗車 分娩補助(夜間を含む) 人工哺乳 搾乳ロボットの管理(夜間を含む) 各施設・機械の点検整備・修繕 バルク洗浄 薬品管理 燃料管理 調教及びブラッシング		

(別紙1)

業務名	区分	業務の詳細	備考
草地管理業務	試験研究補助業務	試験圃場準備・播種	平日業務 天候の状況により閉庁日業務の場合もある
		試験圃場管理	
		試験圃場調査補助	
		サンプル処理	
		試験資材の管理、準備	
	草地管理業務	(トウモロコシ) 肥料散布	
		(トウモロコシ) 堆肥散布	
		(トウモロコシ) 耕うん	
		(トウモロコシ) 播種	
		(トウモロコシ) 鎮圧	
		(トウモロコシ) 除草剤散布	
		(トウモロコシ) 電柵設置・撤去	
		(トウモロコシ) 電柵下草刈り	
		(トウモロコシ) 収穫・運搬・梱包・ラッピング	
		(トウモロコシ) ロール移動・運搬	
		(トウモロコシ) ロール管理	
		(牧草・スーダン) 肥料散布(元肥)	
		(牧草・スーダン) 堆肥散布	
		(牧草・スーダン) 耕うん	
		(牧草・スーダン) 播種	
		(牧草・スーダン) 鎮圧	
		(牧草・スーダン) 除草剤散布	
		(牧草・スーダン) 追肥	
		(牧草・スーダン) 掃除刈	
		(牧草・スーダン) 収穫・運搬・梱包・ラッピング	
		(牧草・スーダン) ロール移動・運搬	
		(牧草・スーダン) ロール管理	
各施設・機械の点検整備・修繕			
薬品管理			
燃料管理			
作付計画・作業計画作成			
堆肥管理業務	試験研究補助業務	堆肥発酵温度の測定	平日業務 閉庁日業務
		各種台帳の整理	
		堆肥関係試験の補助	
	堆肥管理業務	原料の搬入(家畜排せつ物)	
		原料の前処理(乳牛ふん尿のならし)	
		原料の前処理(ハウス乾燥施設の稼働)	
		堆肥の1次処理(ハウス乾燥施設からの移動)	
		堆肥の1次処理(家畜排せつ物の水分調整)	
		堆肥化処理(原料投入)	
		堆肥化処理(施設の稼働)	
		堆積発酵処理(搬出・堆積移動と乾燥)	
		各施設・機械の点検整備・修繕	
		堆肥の仕上げ処理	
		堆肥の運搬	
		スラリー管理(スラリーの移動及び散布)	
		燃料管理	
		堆肥舎周辺の環境整備	
共通業務	共通業務	飼料・敷料等の運搬調達や在庫確認	平日業務
		出荷(競り等)・導入家畜の運搬(搬出入)等補助	
		研修生の受け入れ	
		畜産情報発信(体験型等)に係る業務補助	
		家畜伝染病予防及び対策に係る業務	
		畜産振興に係る業務	

なお、台風や大雨などの天候不良や災害等により、畜産物・粗飼料の生産性等が著しく低下することが予測され、受託者の人員では業務内容が達成されない場合は、発注者と受託者が協議の上、発注者の指示により、発注者の職員が対応し、一方で、受託者の指示により受託者の職員が対応することとする。

(別紙2)

貸与する作業用車両一覧

車両名	名称形式等	車種	登録No.	必要免許※
<自動車>				
キャブオーバー	トヨタXZC710-0005543	普通貨物	岡山100せ7857	①
軽ダンプ	三菱EBD-DS16T	軽貨物	岡山480つ9731	
バン	三菱5BD-DS17V	軽貨物	岡山480に2415	
ダンプ	三菱TKG-FDA40	小型貨物	岡山400と1678	
ダンプ (2tアルミ)	三菱P-FE435ED	普通貨物	岡山11の808	
軽ダンプ	ダイハツEBD-S510P	軽貨物	岡山480て6923	
ダンプ	日野KK-XZU362T	小型貨物	岡山400せ2883	
キャブオーバー	三菱UFG337B	普通貨物	岡山12さ4868	
<作業車>				
(和牛繁殖・酪農・草地管理業務)				
バックホー	日立ZX35U	小型特殊	非登録	①⑥⑦
ショベルローダー	三菱WS500	大型特殊	岡山00ひ14-64	②⑦
ホイールローダー	コマツWA20-2E(G)	小型特殊	美咲町と317	①⑥
ホイールローダー	コマツWA201	小型特殊	美咲町と375	
ホイールローダー	コマツWA30-6NH1	小型特殊	美咲町と831	①⑤
フォークリフト	トヨタ02-7FD20	小型特殊	美咲町と368	
フォークリフト	コマツFD20LC-14	小型特殊	美咲町と315	
フォークリフト	トヨタ7FD25	小型特殊	非登録	
フォークリフト	コマツFD25H-11	新小型特殊	非登録	②⑤
トラクター	Kubota GL530	小型特殊	美咲町と803	①④
トラクター	マッセイファーガソンMF3090-4	新小型特殊	岡山99ひ20-51	②又は③、④
トラクター	マッセイファーガソンMF174-4	新小型特殊	美咲町と377	
トラクター	マッセイファーガソンMF135(240)	新小型特殊	美咲町と311	
トラクター	マッセイファーガソンMF5465-4C	新小型特殊	美咲町と627	
トラクター	マッセイファーガソンMF6465-4C	新小型特殊	美咲町と1051	
トラクター	マッセイファーガソンMF5711SLES4	新小型特殊	美咲町と1273	
(堆肥管理業務)				
ホイールローダー	古河FL303	新小型特殊	美咲町と376	①⑥
ショベルローダー	コマツWR12-8	大型特殊	非登録	②⑦
(和牛肥育業務)				
ダンプ	(トップカー)	小型特殊	非登録	①
ローダー	トヨタ28DK6	小型特殊	美咲町と372	①⑥
フォークリフト	三菱FG10T	小型特殊	美咲町と316	①⑤
フォークリフト	TCMFD20Z-2S	小型特殊	非登録	

○貸与物件であっても、業務に必要な場合は、畜産研究所が使用することを妨げないものとする。

※ (免許の種類)

- ①普通免許 (小型特殊) ③大型特殊免許 (農耕車限定) ⑤フォークリフト運転技能講習修了
 ②大型特殊免許 ④けん引免許 ⑥小型車両系建設機械 (整地等3t未満) 特別教育修了
 ⑦車両系建設機械 (整地等3t以上) 運転技能講習修了

農作業用機械一覧（主なもの）

機械名	用途	台数
ハロー	碎土・均平・鎮圧	1
ローターベーター	耕うん	3
ライムソア	施肥	1
ブロードキャスタ	肥料・種子散布	1
コーンプランタ	トウモロコシ播種	1
ケンブリッジローラー	均平・鎮圧	1
スピードカルチ	土壌深耕	1
モータコンディショナ	牧草刈取り	2
ジャイロテッド	牧草攪拌	1
ディスクハロー	耕うん	1
フォーレージハーベスター	牧草収穫	1
ロールベアラ	牧草梱包	1
細断型ロールベアラ	牧草等梱包	1
コーンハーベスタ	トウモロコシ収穫	1
ブームスプレイヤ	薬剤散布	1
マニユアスプレッド	堆肥散布	3
バキュームカー	液肥散布	1
レーキ	牧草集草	1
ラッピングマシーン	牧草等ビニール梱包	1
プラウ	土壌深耕	1
グラスシーダ	牧草播種	1
テッピングワゴン	牧草等運搬用	1
ベールハンドラー	ロールベール積込用	1
自走給餌機	飼料給餌用	2

○貸与物件であっても、業務に必要な場合は、畜産研究所が使用することを妨げないものとする。

施設付帯設備一覧（主なもの）

施設名	設備名	施設名	設備名
第1牛舎	扇風機	繁殖牛舎	扇風機
	パーンクリーナー		分娩監視カメラ
	分娩監視カメラ	肉用牛舎	扇風機
	ミルクカー		監視カメラ
	飼料攪拌機	哺育牛舎（和牛）	扇風機
搾乳ロボット牛舎	搾乳ロボット	哺育牛舎（和牛）	パーンクリーナー
	扇風機		搾乳ロボット
	スクレーパー		監視カメラ
	搾乳ロボット監視カメラ	間接検定牛舎	扇風機
エサ寄せロボット	自動給餌装置		
哺育牛舎（乳牛）	扇風機	肥育牛舎	扇風機
	搾乳ロボット		自動給餌装置
育成牛舎	パーンクリーナー	農具庫	第1農具庫
	扇風機		第2農具庫
堆肥舎	スクープ式攪拌機		
	ブロー		
ふん乾燥施設	扇風機		
	ロータリー式攪拌機		
汚水処理施設	タンク		
	曝気装置		
	処理水散布装置		

○貸与物件であっても、業務に必要な場合は、畜産研究所が使用することを妨げないものとする。

委託業務計画（報告）書

岡山県農林水産総合センター
センター長 様

業者名

下記のとおり、 月度の委託業務計画（報告）について提出します。

1 牛の飼養管理に関する業務（日・週別は確実に実行） *飼料給与や搾乳などの主たる業務は備考欄に時間を記入すること。

	①給与飼料の準備			備考	②飼料給与		
	日	週			日	週	備考
肥育 牛舎	・残飼料の除去				・残飼料のチェック		
	・濃厚飼料の計量、運搬				・濃厚飼料の給与		
	・粗飼料の計量、運搬				・粗飼料の給与		
	③除糞及び敷料施用			備考	④清掃		
	・牛房及びパドック				・通路、飼槽		
					・牛舎周辺		
	⑤各種機械等の点検・修繕			備考	⑥牛体手入れ		
	・自動給餌機稼働チェック				・洗浄		
					・ブラッシング		
	⑦測尺・採血			備考	⑧出荷準備・枝肉調査等		
後代検定 牛舎	①給与飼料の準備			備考	②飼料給与		
	・残飼料の除去				・残飼料のチェック		
	・濃厚飼料の計量、運搬				・濃厚飼料の給与		
	・粗飼料の計量、運搬			・粗飼料の給与			
	③除糞及び敷料施用			備考	④清掃		
	・牛房及びパドック				・通路、飼槽		
					・牛舎周辺		
	⑤各種機械等の点検・修繕			備考	⑥牛体手入れ		
	・自動給餌機稼働チェック				・洗浄		
					・ブラッシング		
⑦測尺・採血			備考	⑧出荷準備・枝肉調査等			
第一 牛舎	①給与飼料の準備			備考	②飼料給与		
	・残飼料の除去				・残飼料のチェック		
	・濃厚飼料の計量、運搬				・濃厚飼料の給与		
	・粗飼料の計量、運搬			・粗飼料の給与			
	③除糞及び敷料施用			備考	④清掃		
	・牛房及びパドック				・通路、飼槽		
	・パンクリーナー稼働				・牛舎周辺		
					・牛舎の消毒		
	⑤各種機械等の点検・修繕			備考	⑥牛体手入れ		
					・洗浄		
			・ブラッシング				
ロボット 牛舎	①給与飼料の準備			備考	②飼料給与		
	・残飼料の除去				・残飼料のチェック		
	・濃厚飼料の計量、運搬				・濃厚飼料の給与		
	・粗飼料の計量、運搬			・粗飼料の給与			
	③除糞及び敷料施用			備考	④清掃		
	・牛房及びパドック				・通路、飼槽		
	・通路及びスクレーパー				・牛舎周辺		
					・牛舎の消毒		
	⑤各種機械等の点検・修繕			備考	⑥牛体手入れ		
	・搾乳チェック				・洗浄		
・フィルター交換、清掃			・ブラッシング				
⑦未搾乳牛追い込み			備考				

2 草地管理等に関する業務

業務項目	内容 (回数・方法・日時等記入)
(採草地)	
・肥料施用 (追肥)	
・堆肥散布及び土壌改良資材散布、その他	
・番草収穫 (刈取、反転、集草、梱包、包装、運搬、収納含む)	
(飼料畑)	
・堆肥散布及び土壌改良資材散布、その他	
・耕起、砕土、石除去、播種、鎮圧	
・肥料施用 (追肥)	
・番草収穫 (刈取、反転、集草、梱包、包装、運搬、収納含む)	
(放牧地)	
・掃除刈、糞分散	
・肥料施用 (追肥)、土壌改良資材散布	
・牧草種子播種	
(草地補修及び更新作業)	
・除草剤散布、堆肥散布	
・土壌改良資材散布、肥料施用 (基肥)	
・耕起、砕土、石除去、播種、鎮圧、その他	
(作業機械等の安全点検及び整備)	
・作業機械の安全点検及び調整	
・電柵、ワイヤーメッシュ等の点検、修繕	

3 堆肥生産管理に関する業務 (計画)

業務項目	内容 (回数・方法・日時等記入)
(原料搬入・前処理・堆肥化处理)	
・原料搬入、糞尿ならし、ハウス乾燥	
・堆肥の一次処理、堆肥化处理	
・堆肥の仕上げ処理、運搬	
(作業機械等の安全点検及び整備)	
・作業機械の清掃、点検、整備	
・堆肥化处理機械等の点検、調整	

作業日報

記入者:

1 作業年月日

令和 年 月 日

2 作業実施者

3 業務内容

施設	業務内容
特記事項	

(畜産研究所 確認欄)

令和 年 月 日

印

草地管理・堆肥生産管理等に係る作業説明書

【共通事項】

1 目的

本作業説明書は、草地管理・堆肥生産管理等業務委託を適正かつ円滑に実施するため必要な事項について定めるものとし、粗飼料生産等業務編、堆肥生産等業務編の2編から成る。

2 定義

(1) 研究所

業務を委託する岡山県農林水産総合センター畜産研究所を示す。

(2) 受託者

業務を受託する者を示す。

3 受託者の責務

(1) 受託業務を適正に遂行し、最大限の成果が得られるよう努める。

(2) 研究所が業務を遂行するために必要と認めて述べる意見を尊重する。

(3) 貸付機械等を適正に維持管理し、修理しようとするときは、あらかじめ研究所に通知するとともに、修理終了後はその内容を報告する。

(4) 作成すべき文書・記録を作成し、保管すべき期間保管する。

4 研究所の責務

(1) 委託業務全般を管理監督する。

(2) 円滑かつ適正な業務が遂行されるよう、必要な措置を講じる。

5 作業説明書、記録・報告様式の制定及び改訂

(1) 作成

作業説明書、記録・報告様式は研究所が作成し、制定する。

(2) 改訂

内容に変更があれば、速やかに見直しを行い改訂する。また、現実に即して定期的に見直しを行う。

(3) 記録・報告

必要な記録は受託者が行い、研究所に報告するものとし、日々の業務について日報等（別記様式：日報）に記録すること。

6 各記録の保存期間

業務遂行上作成された記録・報告書類は、各々岡山県の文書保存年限に基づいて保存すること。

[粗飼料生産等業務編]

第1章 粗飼料生産及び草地・飼料畑の管理に関する事項

1 管理する草地・飼料畑

位置及び面積は、別紙2のとおり。

2 粗飼料生産

(1) 年間作業計画（粗飼料生産等の計画）

別紙3（1～5）のとおり。ただし、作業に当たっては、あらかじめ研究所と受託者との綿密な打ち合わせを行うものとする。

(2) 堆肥の利用

粗飼料生産等で使用する堆肥は、研究所で生産されたものを使用する。

(3) 資材の供給

使用する種子、化成肥料及び除草剤等は、別途研究所が支給する。

(4) 収穫計画報告

受託者は、収穫前には収量調査を行い、予測される生産量及び品質を把握して、研究所に報告する（別記様式1）とともに、飼料成分分析用のサンプルを採取する。

(5) 生産量報告

収穫終了後は、速やかに生産量を研究所に報告する（別記様式2）。

第2章 牛尿処理施設の管理に関する事項

1 管理する牛尿処理施設

位置等は、別紙2のとおり。

2 牛尿処理施設の管理業務

10～14日間隔で貯水状況等の様子を見ながら次の手順で行う。

(1) スラリーストアの貯水状態（量）を確認。

(2) 定置配管用ポンプ（圧送ポンプ）が使用されていないことを確認。

※圧送ポンプ使用時には、曝気槽からスラリーストアに送水できない。

(3) 曝気槽（曝気槽は2槽あり交互に利用する）からポンプで曝気処理水を送水する（要30～60分程度）。

(4) 原尿の投入槽からポンプで曝気槽へ送水する（要30分程度）。

3 草地への散布業務

スラリーストアの貯水状況と草地の状況に応じて、草地7箇所排水バルブから草地に散布するものとし、散布時期・散布量等作業の詳細は、その都度研究所から指示する。

4 スラリーのフロー

和牛、乳用牛からの排水→原水貯留槽→投入槽（91立米）→

曝気槽（120立米×2槽）→スラリーストア（839立米）→配管2016m→草地

第3章 放牧場等の管理整備に関する事項

1 管理する放牧場等

位置及び面積は、別紙2のとおり。

なお、管理対象には、放牧利用する草地（区分10, 17）を含む。

2 業務の内容

放牧場等の維持管理に資するため、次の業務を行う（時期は概ね）。

(1) 施肥業務

放牧場への肥料散布（4～6月、3月）。

(2) 管理業務

放牧場内の雑かん木草の刈り取り（1～3月）、播種（10～11月）、牧柵・防護柵の点検・設置（5月）、牧道（アスファルト舗装）沿いの雑草刈り取り（随時）等。

(3) 作業の実施時期、詳細については、その都度研究所から指示する。

第4章 試験研究の補助に関する事項

研究所が粗飼料生産に関する試験研究を行う場合、必要に応じてその指示により補助を行うものとする。

[堆肥生産等業務編]

第1章 堆肥生産施設の管理運營業務

1 原料の搬入

堆肥の原料となる牛ふんは、各排出元から搬入される。

(1) 和牛・育成牛のふん尿

いつ：毎日+敷料交換時

どこに：堆肥化施設内の堆積場（堆肥化施設配置図①）

どのように：運搬車で、容器に詰めていないはだか状態で持ち込む

(2) 乳用牛ふん尿

いつ：毎日

どこに：ふん乾燥施設のA、Bレーン北側の入口（②）

どのように：運搬車で、容器に詰めていないはだか状態で持ち込む

2 原料の前処理

(1) ふん乾燥施設

良質な堆肥を生産するため、ふん乾燥施設において乳用牛のふん尿を前処理する。

1) 乳用牛ふん尿の水分調整・投入

搬入された乳用牛のふん尿は、オガクズ等で水分調整後、ふん乾燥施設の床面に水平となるようにホイールローダーを使用して平らにならす（②）。

2) ふん乾燥施設の稼働

- ・乳用牛ふん尿を乾燥させるため、ふん乾燥施設を稼働させる。
- ・稼働操作等は、研究所の指導に従うこと。
- ・1日8～10時間稼働させること。
- ・必要に応じて送風機（4台）も稼働させること。
- ・乳用牛ふん尿は、A、Bレーンを南に向かって移動し、南側出口（③）から排出される。

(2) 堆積場

和牛のふん尿は、堆積場へ毎日及び敷料交換時に搬出される。

3 乾燥ふんの移動

(1) ふん乾燥施設から移動（乳用牛ふん尿）

- ・ふん尿をホイールローダーでスクープ式堆肥化施設に運搬する。

4 攪拌発酵処理（一次処理）

（1）スクープ式堆肥化施設への原料投入

- ・堆積場の和牛のふん尿及びふん乾燥施設から搬出された乳用牛のふん尿をホイールローダーで投入する。

投入方法：スクープ式堆肥化施設の西南側（北から10本目と12本目の柱の間）（⑤）へ、数カ所に分けてホイールローダーで1日分を投入する。なお、敷料交換等大量に搬出された場合は、数日に分けて投入する。

（2）スクープ式堆肥化施設の稼働

- ・原料の発酵を促進するため、スクープ式堆肥化施設を稼働させる。
- ・稼働操作等は、研究所の指導ほか、添付するメーカーの取扱説明書に従うこと。（（株）ナカミチ技研「連続発酵堆肥化処理装置」取扱説明書）
- ・折り返し地点（④）では、堆肥化物を西レーンから東レーンに移送する。
- ・1日1回転又は1.5回転稼働させること。
- ・原料は、1回転の稼働で約2m移動する。
- ・堆肥温度計を適宜差し替え、温度を測定する。

5 堆積発酵処理（二次処理）

（1）スクープ式堆肥化施設からの搬出

- ・発酵した堆肥化物は、投入60日後に施設南側（⑥）から排出される。

1）堆積発酵施設

- ・スクープ式堆肥化施設から排出された堆肥化物は、ホイールローダーを使用して堆積発酵施設（⑦）において二次処理を行い、ストック施設（⑧）に保管する。

（ア）堆肥の用途

- ・ストック施設（⑧）に保管された完成堆肥は、研究所の草地等の維持管理を行うために使用する。

6 コマツナの発芽試験

生産された堆肥の品質評価に資するため、研究所指示のもと、適宜、コマツナの発芽試験等を実施する。

第2章 試験研究等の補助業務

詳細は具体的な試験実施時に研究所が指示するが、おおまかな作業内容は次のとおり。

1 補助業務の内容

- ・試験施設への原料ふんの投入
- ・試験堆肥の切り返し
- ・堆肥の温度等の測定

2 補助業務の実施時期

- ・年4回程度
- ・試験1回あたり20日程度

- ・所要時間 60 分／日程度

3 補助業務の実施方法

- ・ホイールローダーによる原料の運搬、搬入
- ・ホイールローダーによる堆肥の切り返し

第3章 堆肥の譲渡業務（旭地区堆肥置き場位置図参照）

1 定期譲渡

（1）譲渡先

旭地区の4箇所に設置されている堆肥置き場への供給

- ・名称：川北堆肥置き場 所在地：美咲町中
- ・名称：篠平堆肥置き場 所在地：美咲町西
- ・名称：江与味堆肥置き場 所在地：美咲町江与味
- ・名称：八柳堆肥置き場 所在地：美咲町南

（2）譲渡時期

研究所からの指示に基づき、ダンプで運搬

（3）譲渡の荷姿

ダンプ1台分（岡山400せ2883 HINO 2 t）を基本にしたばらとする。

2 不定期譲渡

（1）譲渡先

譲渡を希望する者

（2）譲渡場所

研究所の指示による、堆肥生産施設内現地での譲渡

（3）譲渡時期

譲渡希望があった際に随時

（4）譲渡の荷姿 ばら

（5）譲渡の手順

1) 購買者が堆肥舎へ直接赴いた場合

- ・本館窓口で手続きを行う旨、購買者に伝達すること。

2) 購買者が本館で受付を行った場合

- ・本館での受付終了後、研究所から連絡する。

3 堆肥の出荷・販売記録簿

研究所の指示により堆肥を譲渡した場合には、遅滞なく記録すること（別記様式

4）。

※堆肥供給・譲渡の流れ及び堆肥置き場の位置は別紙を参照のこと。

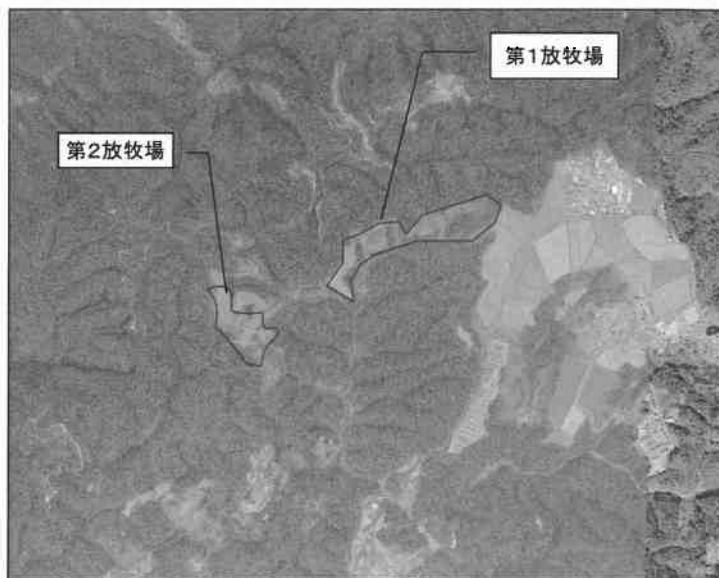
草地管理・堆肥生産管理等業務委託に係る草地及び施設等の配置



業務対象草地等

草地区分	面積(a)
①-1	77
①-2	68
②	228
③	220
④	169
⑦	200
⑧	259
⑨	348
⑪	241
⑫	78
⑬	178
⑭	291
⑮	293
⑯	141
⑱-1	92
⑱-2	283
⑳	111
②	33
合計	3,445

第1放牧場	885
第2放牧場	1,151



【参考】

区分	面積(a)	現況
⑤	99	ふれあい放牧
⑩	144	ホル放牧
⑰	175	和牛放牧

1 令和7 年作付け計画

永年牧草・イタリアン

収穫(a) 7,077
更新(a) 2,118

1番草	ほ場No.	面積(a)
	7	200
	8	259
	9	348
	10	
	11	241
	12	78
	13	178
	14	
	15	293
	16	141
	17	
	18	135
	19-1	92
	19-2	283
	20	111
	21	
	計	2,359

3番草	ほ場No.	面積(a)
	7	200
	8	259
	9	348
	10	
	11	241
	12	78
	13	178
	14	
	15	293
	16	141
	17	
	18	135
	19-1	92
	19-2	283
	20	111
	21	
	計	2,359

2番草

	ほ場No.	面積(a)
	7	200
	8	259
	9	348
	10	
	11	241
	12	78
	13	178
	14	
	15	293
	16	141
	17	
	18	135
	19-1	92
	19-2	283
	20	111
	21	
	計	2,359

更新

	ほ場No.	面積(a)	備考
	7	200	イタリアン
	8	259	イタリアン
	9	348	イタリアン
	10		
	11		
	12	78	イタリアン
	13	178	イタリアン
	14		
	15	293	イタリアン
	16	141	イタリアン
	17		
	18	135	イタリアン
	19-1	92	イタリアン
	19-2	283	イタリアン
	20	111	イタリアン
	21		
	計	2,118	

トウモロコシ

収穫(a) 516
更新(a) 516

	ほ場No.	面積(a)
	1-2	68
	2	228
	3	220
	計	516

更新

	ほ場No.	面積(a)	備考
	1-2	68	トウモロコシ
	2	228	トウモロコシ
	3	220	トウモロコシ
	計	516	

別紙 3-2

2 作業スケジュール (月別)

No.	実面積 (a)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1-1	77													耕作休止
1-2	68	トウモロコシ ◎△◆	-----											
2	228	トウモロコシ ◎△◆	-----											
3	220	トウモロコシ ◎△◆	-----											
4	169	景観作物 ◆	-----	開花										排水不良のため景観作物播種予定 R5に防護柵設置、秋播種は要検討
5	99	景観作物												まきは管理事務所で管理
7	200	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
8	259	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
9	348	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
10	144	放牧利用			掃除刈	追肥		掃除刈						リードカナリー主体
11	241	永年牧草 -----											△	リードカナリー
12	78	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
13	178	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
14	291													耕作休止
15	293	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
16	141	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
17	175	放牧利用			掃除刈	追肥		掃除刈						
18	135	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
19-1	92	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
19-2	283	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
20	111	イタリアン -----						イタリアン ◎△◆					△	
21	33													耕作休止
	3,830	33												

凡例 ◆耕起播種 -----栽培期間 △施肥 ||刈取り ◎堆肥投入

3 作業の詳細

(1) 永年牧草・イタリアン

(1番草)

ほ場No.	面積(a)	時期
1-2		
2		收穫時期
3		5月下旬～6月上旬
4		
5		
7	200	
8	259	
9	348	
10		
11	241	
12	78	
13	178	
14		
15	293	
16	141	
17		
18	135	
19-1	92	
19-2	283	
20	111	
21		
計	2,359	

作業内容	作業機械	時期	方法
刈取	モアコンディショナ	5月下旬～6月上旬	天候等勘案し概ね1ヶ月間
反転	ジャイロテッダ	5月下旬～6月上旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分量が異なるため、回数については協議する。
集草	レーキ	5月下旬～6月上旬	反転により適正な水分含量50%以下まで乾燥後に集草する。
梱包	ロールベアラー	5月下旬～6月上旬	ロールの大きさは、120cmで梱包する。
ラッピング	ラッピングマシン	5月下旬～6月上旬	原則ほ場内で、ラッピングする。ラップは33回転実施する。
積込(圃場)	ショベルローダー	5月下旬～6月上旬	ほ場の隅に集める。
運搬(牛舎)	トレーラー ベールハンドラー	6月上旬	ほ場の隅に集めたロールを指定の牛舎に運搬、収納する。

(2番草)

ほ場No.	面積(a)	時期
1-2		
2		肥料散布
3		6月中旬
4		(1番草收穫後)
5		
7	200	收穫時期
8	259	7月中旬～下旬
9	348	
10		
11	241	
12	78	
13	178	
14		
15	293	
16	141	
17		
18	135	
19-1	92	
19-2	283	
20	111	
21		
計	2,359	

作業内容	作業機械	時期	方法
肥料散布	ブロードキャスタ	6月中旬	1番草收穫後、化学肥料(硫安)を10aあたり30kg均一に施用する。
刈取	モアコンディショナ	7月中旬～下旬	天候等勘案し概ね1ヶ月間
反転	ジャイロテッダ	7月中旬～下旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分量が異なるため、回数については協議する。
集草	レーキ	7月中旬～下旬	反転により適正な水分含量50%以下まで乾燥後に集草する。
梱包	ロールベアラー	7月中旬～下旬	ロールの大きさは、120cmで梱包する。
ラッピング	ラッピングマシン	7月中旬～下旬	原則ほ場内で、ラッピングする。ラップは33回転実施する。
積込(圃場)	ショベルローダー	7月中旬～下旬	ほ場の隅に集める。
運搬(牛舎)	トレーラー ベールハンドラー	7月下旬	ほ場の隅に集めたロールを指定の牛舎に運搬、収納する。

3 作業の詳細
(2) トウモロコシ

ほ場No.	面積(a)	時期
1-2	68	収穫時期
2	228	9月上・中旬
3	220	
計	516	

作業内容	作業機械	時期	方法
除草	ブームスプレイヤ	4月中旬～5月中旬	ゲザノンゴールドを10aあたり0.25Lを均一に散布する。
堆肥散布	マニユアスプレッダ ホイールローダー	4月中旬～5月中旬	10aあたり5tを均一に施用する。
耕うん	ローターペーター	4月中旬～5月中旬	ほ場面の長い方向に実施する。
播種	コーンプランタ	4月中旬～5月中旬	種子を規定量播種する。あわせて化成肥料(硫安)を側条施肥する(10aあたり60kg)。
鎮圧	スピードカルチ	4月中旬～5月中旬	縦、横方面の2回行う。
除草	ブームスプレイヤ	5月下旬 6月中旬	3～7葉期にアルファード10aあたり150mlを均一に散布する。 周辺はラウンドアップを10aあたり1000ml均一に散布する。
刈取	コーンハーベスタ テッピングワゴン	9月上・中旬	天候等勘案する。
運搬	ダンプ	9月上・中旬	ほ場から梱包場所まで運搬する。
投入	ショベルローダー	9月上・中旬	ペーラー内の残量を確認しながら投入する。
梱包	細断型ロールペーラー	9月上・中旬	ネットで3回転巻きとする。
ラッピング	ラッピングマシン	9月上・中旬	幅50cmのラップで3回巻(6層)とする。
収納	ペールハンドラー	9月上・中旬	指定場所に収納する。

3 作業の詳細
(3)スーダン

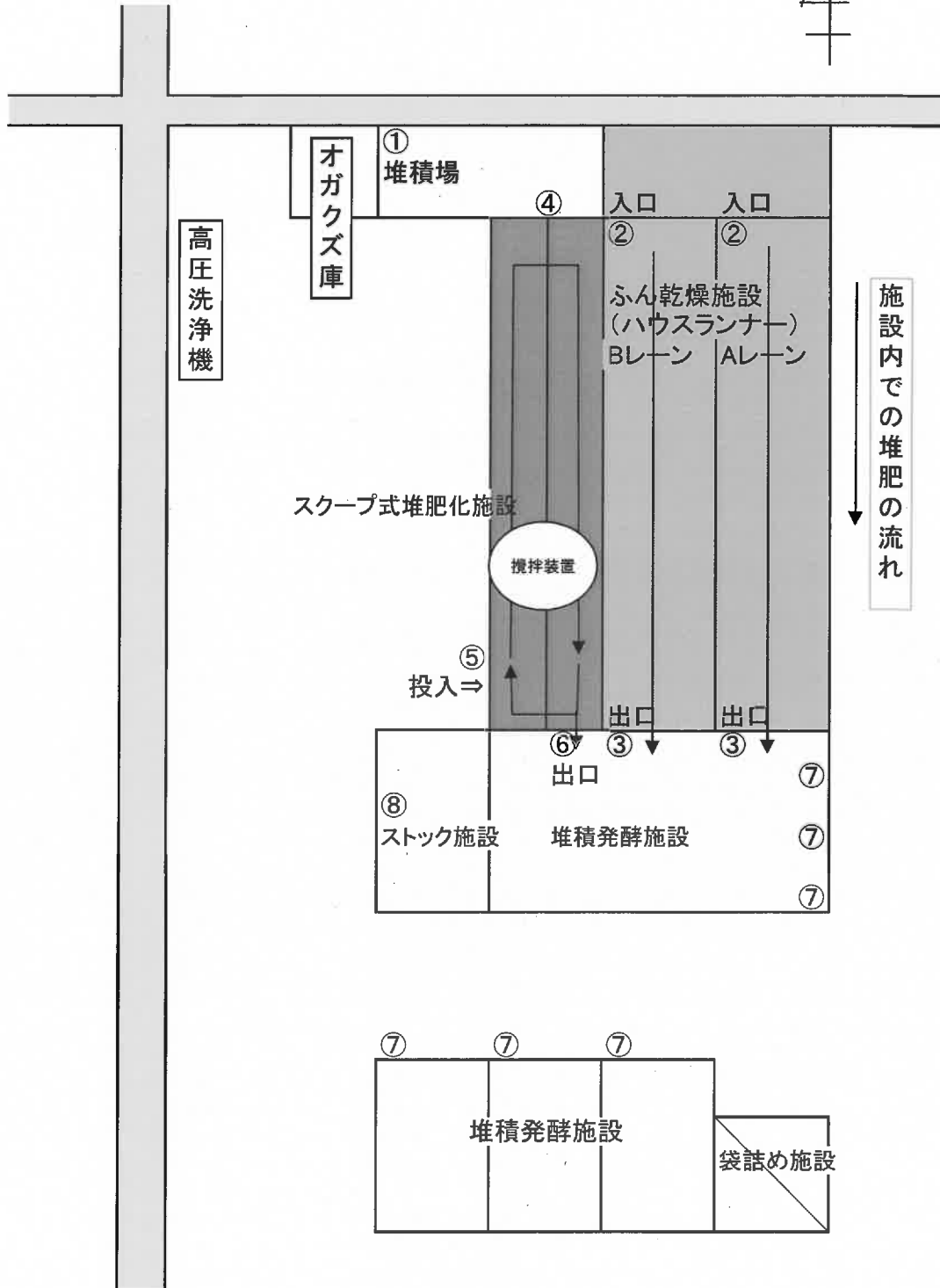
ほ場No.	実面積(a)	延べ面積(a)	収穫草	時期
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>令和7年度 作付け予定なし</p> </div>				播種時期 6月上旬～下旬 収穫時期(1番草) 8月上旬～9月上旬 収穫時期(2番草)
計	0			

作業内容	作業機械	時期	方法
堆肥散布	マニユアスプレッダ ホイールローダー	6月上旬	10aあたり5tを均一に施用する。
肥料散布	ブロードキャスタ	6月上旬	化成肥料(硫安)を10aあたり60kgを均一に施用する。
耕うん	ローターベーター	6月中旬	圃場面の長い方向に実施する。
播種	グラスシーダ	6月中旬	種子を10aあたり8.0kgを均一に播種する。
鎮圧	スピードカルチ	6月中旬	縦、横方面の2回行う。

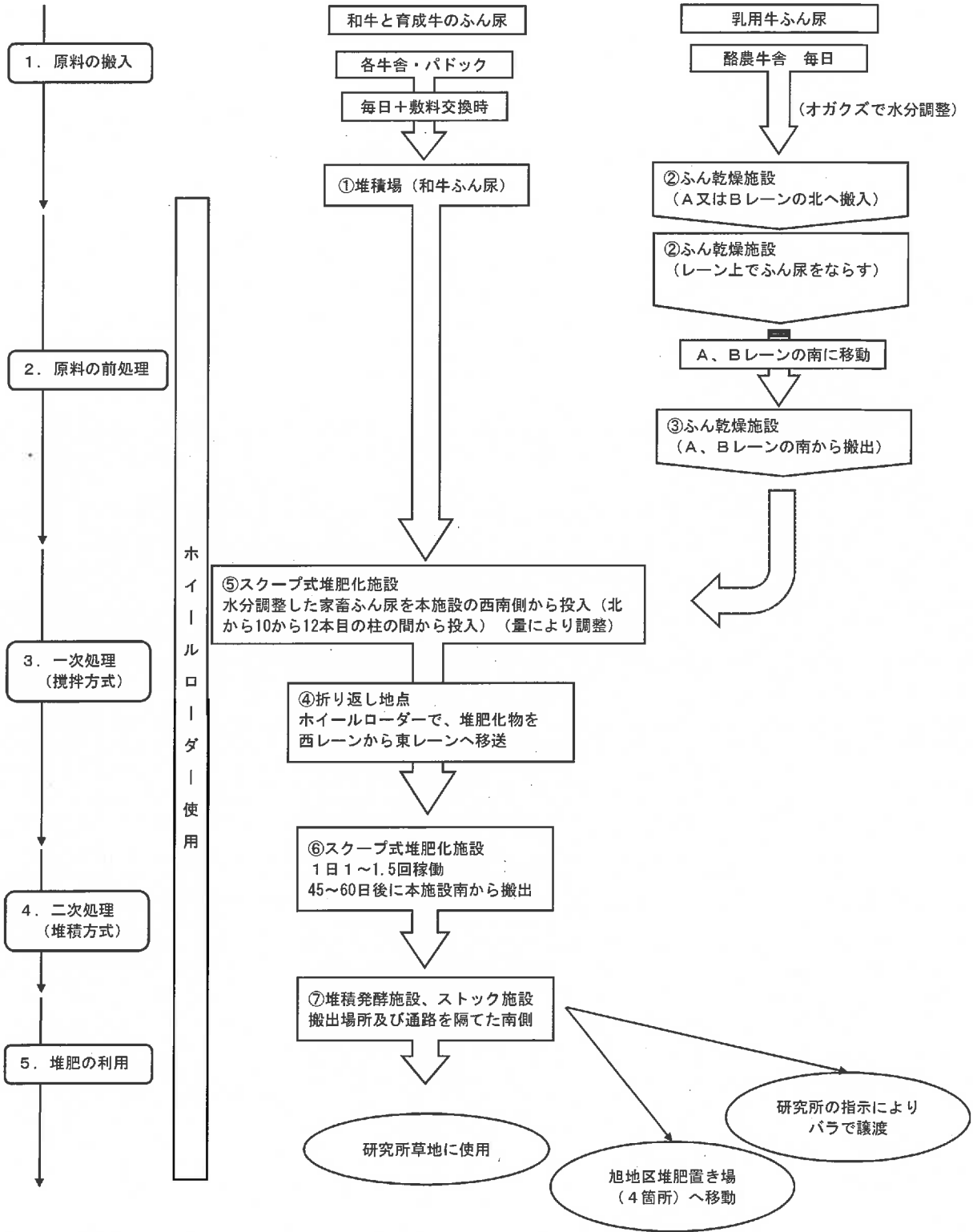
1番草	刈取	モアコンディショナ	7月上旬	刈取時期は出穂期とする。
	反転	ジャイロテッダ	7月上旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分含量が異なるため、回数については協議する。
	集草	レーキ	7月上旬	集草する山はあまり多くせず、山はできるだけ均一にする。
	切断・集草	フォーレージハーベスター	7月上旬	刈取った牧草の水分に注意する。
	運搬	テッピングワゴン ダンプ	7月上旬	ほ場から梱包場所まで運搬する。
	投入	ショベルローダー	7月上旬	ベラー内の残量を確認しながら投入する。
	梱包	細断型ロールベアラ	7月上旬	ネットで3回転巻きとする。
	ラッピング	ラッピングマシーン	7月上旬	ラップは100cmで、22回転(3層)とする。
移動	ベールハンドラー	7月上旬	指定場所に収納する。	
2番草	肥料散布	ブロードキャスタ		化学肥料(硫安)を10aあたり30kgを均一に施用する。
	刈取	モアコンディショナ	9月上旬	刈取時期は出穂期とする。
	反転	ジャイロテッダ	9月上旬～10月上旬	刈取の翌日から概ね1日2回反転し、2～3日間実施する。天候等によって牧草の水分含量が異なるため、回数については協議する。
	集草	レーキ	9月上旬～10月上旬	集草する山はあまり多くせず、山はできるだけ均一にする。
	梱包	ロールベアラ	9月上旬～10月上旬	ロールの大きさは、120cmで梱包する。
	ラッピング	ラッピングマシーン	9月上旬～10月上旬	原則、圃場内で、ラッピングする。 ラップは33回転実施する。
	積込(圃場)	ショベルローダー	9月上旬～10月上旬	ほ場の隅に集める。
	運搬(牛舎)	トレーラー ベールハンドラー	10月上旬	ほ場の隅に集めたロールを指定の牛舎に運搬、収納する。

堆肥化施設 配置図

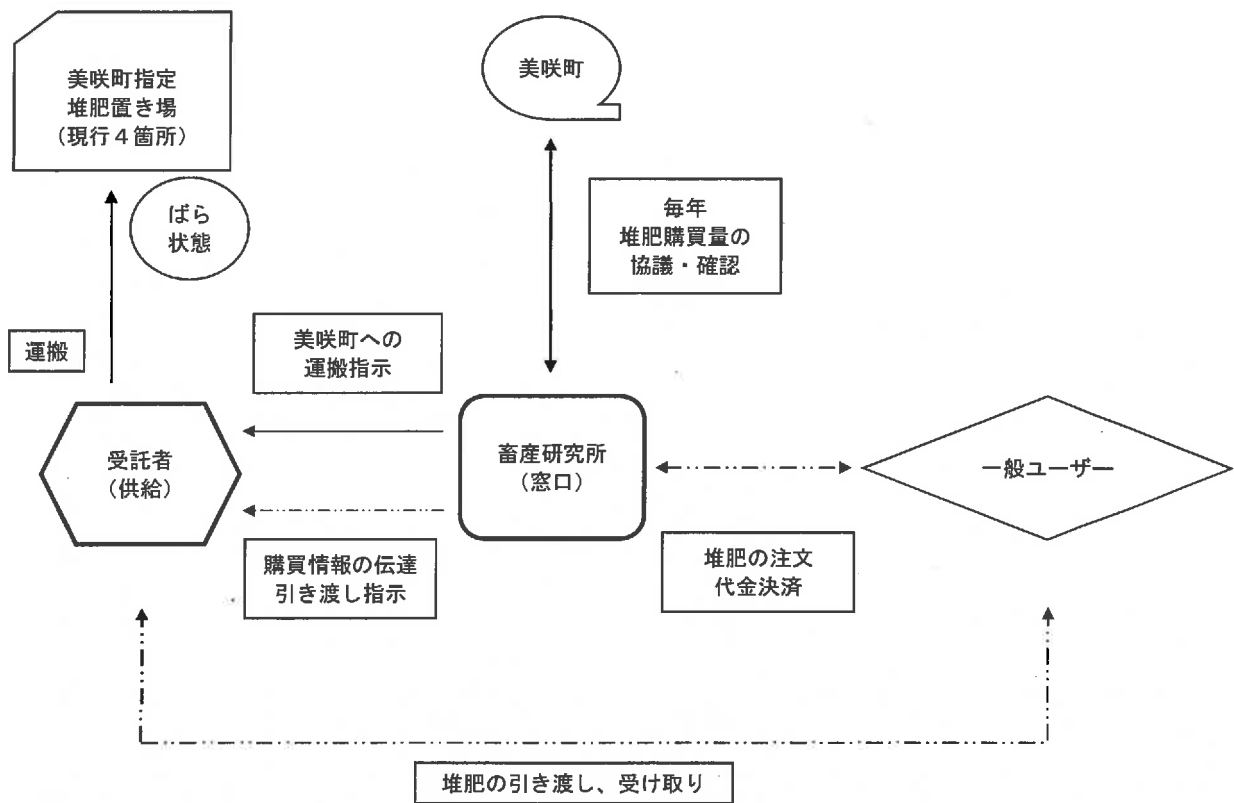
4



堆肥生産業務の流れ（フローチャート）

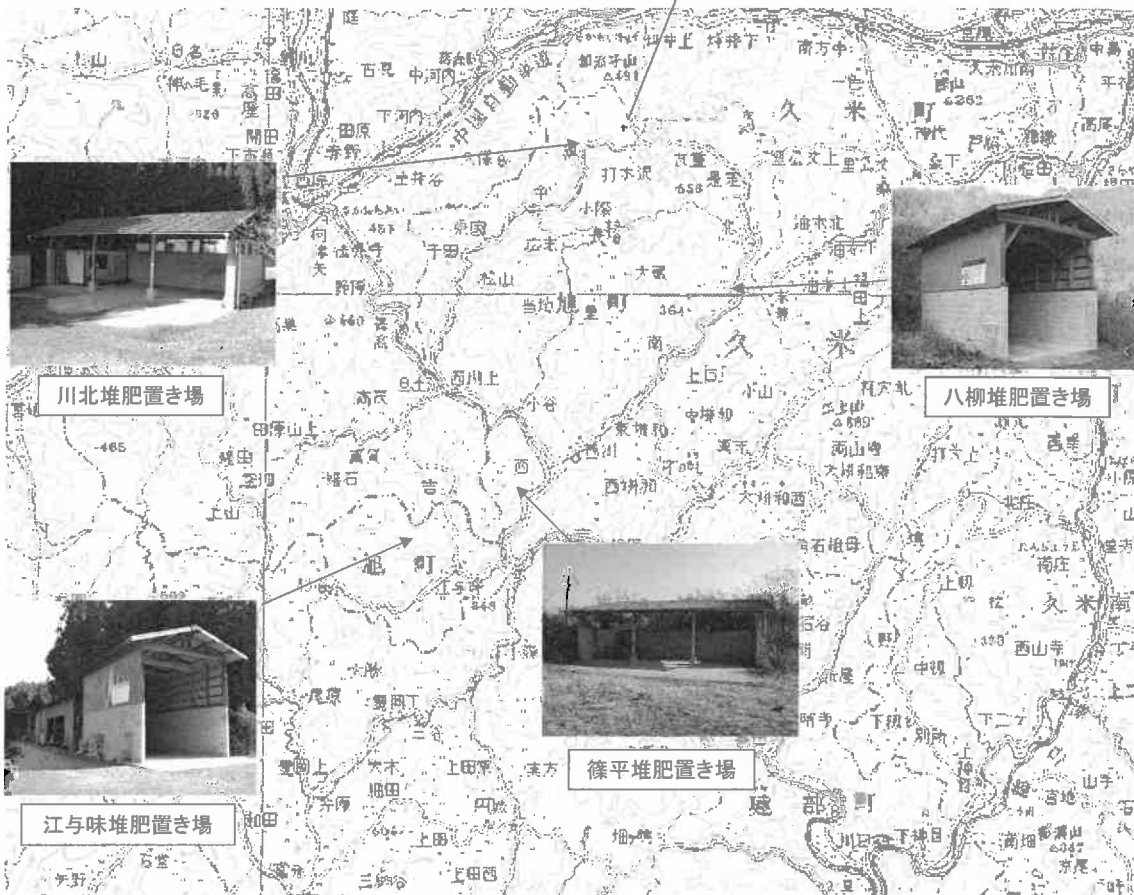


堆肥供給・譲渡の流れ



旭地区堆肥置き場 位置図

畜産研究所



作業日報

記入者:

1 作業年月日

令和 年 月 日

2 作業実施者

3 作業内容

区分	内容	特記事項
【粗飼料生産等業務】		
①粗飼料生産及び草地・飼料畑の管理		
②スラリーストアの管理		
③放牧場の管理整備		
【堆肥生産等業務】		
①堆肥生産施設の管理運営		
②堆肥の譲渡		
【試験研究の補助】		
【その他】		

4 その他(記載すべき事項)

(畜産研究所 確認欄)

令和 年 月 日

印

農林水産総合センター畜産研究所長 殿

受託者
団体名
代表者名

点検・修理等（記録）報告書

貸付機械等について点検・修理を行ったので、次のとおり報告します。

記

機械名	点検・修理の内容	点検・修理の依頼先	点検・修理に要した経費	点検・修理後の状況	備考

スクープ式堆肥化施設管理簿

①月日	①天気	②気温 (°C)	②湿度 (%)	③サークルコンポ 発酵温度 (°C)						④副資材投入量 (バケツ・杯)	⑤サークル 投入量 (杯)	⑥サークル 稼働量 (周回)	⑦プロア 稼働時間	⑧仕上り 堆肥量 (杯)	⑨備考
				時刻	柱3	柱5	柱7	柱9	柱11						
				東									ON		
				西							周		OFF		
				東									ON		
				西							周		OFF		
				東									ON		
				西							周		OFF		
				東									ON		
				西							周		OFF		
				東									ON		
				西							周		OFF		
				東									ON		
				西							周		OFF		
				東									ON		
				西							周		OFF		
				東									ON		
				西							周		OFF		

※①～⑨の記入方法は、記載要領の①～⑨に示したとおり。